

令和3年度 大阪国際大和田中学・高等学校 自己評価

大阪国際大和田中学・高等学校
校長 清水 隆

1 めざす学校像

【めざす学校像】

建学の精神である「全人教育」を基礎として、礼節を重んじ世界に通じる心豊かな人間を育成する学校をめざす

- 伝統ある私立学校として、生徒、保護者から信頼され、期待される学校。
- 国際社会で活躍できる高い志をもった生徒を育成する学校。
- 「知・徳・体」の三つの力をバランスよく兼ね備えた、心豊かな人格者を育成する学校。
- すべてにおいて「チーム大和田」として組織的に一丸となって取り組む学校。

【生徒に育みたい力】

- 高い教養と正義感に裏打ちされた心豊かな人間力。
- 課題を乗り越え、高い志に向かって最後まで頑張り抜く強い精神力。
- 学んだ知識や経験を生かして新しいことにチャレンジする創造力。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 3年間を見通した高い学力の定着に取り組む

- ア 授業アンケートにおいてアンケート項目の「授業が良く分かる」の項目をA（よくあてはまる）が50%以上をめざす。
- イ 教科担当、部顧問の連携を密にし、個々の生徒の学習到達度を共有し、補習や講習と部活をスムーズに連動させて学力を向上させる。
- ウ 文武両道を奨励し、部活動への参加者が80%（運動系、文化系の合計）以上をめざす。
- エ 高い志の涵養をはかるとともに、難関大学の合格者数を増やす。大学入試で京大、阪大、神戸大の合計人数を20人以上、関関同立にあっては、延べ合格者数を、250人以上になることをめざす。

(2) 学習指導の充実に取り組む

- ア 各教科毎に3年間を見通した学力育成プログラムを作成する。
- イ 本校の生徒実態を踏まえた、学習到達目標の点検を行うとともにさらなる充実に取り組む。
- ウ 電子黒板またはプロジェクターを全教室に導入し、一層の授業改善を行う。
- エ 授業評価と研究授業、公開授業の充実（教科の枠を超えた授業研究の実施）し、互いに見学する回数を1人平均3回以上にする。
- オ 英語に対する学習意欲を増加させ、英語検定2級以上の生徒が全校で150人以上、またはGTEC-CBTにおいて600点以上の生徒が受験者の80%以上になることをめざす。

2 グローバル社会に貢献できる人材の育成（夢・志の育成とともに、豊かな人間性の育成）

(1) グローバルに活躍する人材の育成

- ア 海外の優秀な大学の授業を体験して世界を知らしめ、大きな刺激を与える。
- イ 海外研修を充実させ、世界を意識させるとともに英語力の向上をはかる。
- ウ 大阪国際大学と連携し、世界に羽ばたく意欲を高める取り組みを実施する。

(2) 生徒理解の促進と安心な学校づくりのための体制の確立をめざす。

- ア 教育相談委員会の充実をはかり、担任、学年団、カウンセラーと連携し、様々な問題で登校できなくなる生徒を支援し、不登校状態の生徒を0に近づける。
- イ 学年連絡会を活性化させ学年団で生徒を支援する体制を構築し、入学した生徒が全員卒業できるようにする。

3 中堅、若手教員の資質向上

- ア 新規採用教員に対して教科指導力、生徒指導力の育成を図る。
- イ 若手教員に対しても教科指導力、生徒指導力の育成を図る。
- ウ 中堅教員に対しては学校運営の視点の育成を図る。
- エ 人権に対する意識向上を図る。

4 教職員の学校運営に対する意識の向上

- ア 新中高開校と校舎移転の円滑な実施に向けて、関係部署との連携と進捗状況の情報共有を行う。
- イ 中高ともに募集定員の確保に向けて募集広報活動を活性化させる。
- ウ 各種会議の時間短縮や事務の効率化により、教員が生徒とかかわる時間を増やす。
- エ 学校における危機管理に関する研修会を開催し意識の向上を図る。
- オ 家庭との連絡を密にするとともに、PTA活動の活性化に協力する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

自己評価：◎目標以上 ○ほぼ目標どおり △目標に達していない ×全く取り組めていない

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 「主体的対話的で深い学び」の実現。	(1) ア. 「一方的な授業形態を改め、双方向の授業」を今まで以上に推奨し推進する。 イ. ICT活用などによる、より分かりやすい授業への改善の取組みを推進する。 ウ. 教員相互の授業見学、先進的取組みの視察やセミナー受講などによる授業研究を実施する。	(1) ア. 授業アンケートの「授業の中で思考したり、判断したりする機会がある」の各教科評価平均値 3.0 以上 イ. 授業アンケートの「授業に満足している」の各教科評価平均値 3.0 以上 ウ. 学校評価アンケートによる教員研修関連項目の肯定的評価の平均 60%以上	(1) ア. 授業アンケート「授業における思考・判断の機会」 ・各教科平均 3.35(昨年 3.31) (◎) イ. 授業アンケート「授業の満足度」 ・各教科平均 3.43(昨年 3.37) (◎) ウ. 学校評価アンケート「教員研修関連」 ・肯定的評価 46%(昨年 44%) (×)
	(2) 自学自習の態度を養成し、意欲的に学習する姿勢の涵養	(2) ア. 家庭で学習する習慣を身につけさせるため、毎日課題や朝学習などの取組みにより、学習意欲を増加させる。 イ. 将来の目標を考える機会を確保するとともに、生徒の希望進路の実現に向けた取組を充実させる。 ウ. 文武両道により、知徳体のバランスの取れた人材育成をめざす。	(2) ア. 授業アンケートによる「生徒の自主学習への取組み」の各教科の評価平均値 3.0 以上。 イ. 国公立大学 50 名、関関同立 200 名の合格をめざす。 ウ. 部活動の加入率 80%以上。	(2) ア. 授業アンケート「生徒の自主学習への取組み」 ・各教科の平均値 2.53 (昨年 2.58) 教科別では、数学 2.95、英語 2.99 が高い。(×) イ. 進学実績(3月31日現在) 国公立 58 名 (昨年 57 名) 京大 1 名 (昨年 1 名)、阪大 3 名(昨年 3 名)、神戸大 8 名(昨年 6 名) 関関同立 223 名(昨年 207 名) <卒業生数 254 名(昨年 231 名)> (◎) ウ. 部活動加入者 647 名/810 名(80%) (◎)
2 グローバル社会に貢献できる人材の育成	(1) グローバルリーダーの育成をめざし、それにふさわしい素養を身につけさせる。	(1) ア. 多文化理解の取組みの実施 イ. イングリッシュセミナーやグローバルビレッジ、英語スピーチコンテストなど英語によるコミュニケーション能力の育成の充実 ウ. 海外の中学・高校との交流を実施する。	(1) ア. 学校評価アンケートの「学校はボランティア・国際理解活動に取り組んでいる」の肯定的評価 70%以上 イ. 英語検定 2 級以上、GTEC-CBT 600 点以上の取得 80%以上 ウ. 姉妹校などとのオンラインや E-mail による交流の実施を検討する。	{1} ア. 生徒 中学 70 % (昨年 66%) 高校 60 % (昨年 68%) 保護者 中学 78 % (昨年 75%) 高校 57 % (昨年 68%) イ. ①英検の結果 (R3 新規合格者) 準 1 級 中高計 3 名 (昨年 5 名) 2 級 中高計 78 名 (昨年 110 名) 準 2 級 中高計 133 名 (昨年 158 名) 3 級 中高計 57 名 (昨年 47 名) ②GTEC-CBT の結果 高 3 受検者平均 885 点(昨年 875 点) 690 点以上 (A2・2 以上) 77% ((昨年 71%) B1 以上の高得点者 47 名(19.8%) (◎) ウ. 海外研修や海外修学旅行は全て中止となった。 ・オーストラリアの姉妹校とのオンライン交流や e-mail による交流を再開。 ・来年度の双方向での交換留学の再開を検討。(△)
	(2) 生徒理解の促進と安心な学校作りのための体制の促進	(2) ア. 精神的な疾患等による長期欠席者または不登校者に対するケアを行い、転・退学の防止に努める。 イ. SNS 利用に関するトラブルなど、いじめにつながる問題事案の発生の防止に努める。	(2) ア. 転・退学者数が在籍生徒の 1.0%以内。 イ. 学校評価アンケートの「困ったとき、相談したり手助けしてくれる先生がいる」の肯定的評価が 70%以上	(2) ア. R3 年度転・退学者数(3月31日現在) 中学 2 名(1.0%)、高校 18 名(2.2%) <昨年度中学 1 名(0.4%)、高校 11 名(1.4%)> (△) イ. 生徒 中学 77% (76%) 高校 85% (81%) 保護者 中学 78% (78%) 高校 77% (77%) ・7月に中学生の生徒・保護者対象に SNS に関する講演会を実施。また、高校各学年集会において、SNS 利用に関する注意事項を指導した。 ・中学において 2 件、高校において 1 件、スマホ・SNS に関する問題事象が生起し、関係生徒に指導を行った。(○)

<p>3 教員の資質向上</p>	<p>(1)新規採用教員及び若手教員の育成 (2)中堅、ベテラン教員のリーダーシップの育成</p>	<p>(1)年間を通して、管理職やベテラン教員による授業見学や面談により指導助言を行うとともに、若手教員間での授業研究を促進する。 (2)新中高への移行を意識して、滝井高校との合同研修などにより教科指導、生徒指導などの相互理解を深める。</p>	<p>(1)学校評価アンケートの「初任者等経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある」の肯定的評価が70%以上。 (2)学校評価アンケートの「教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。」の肯定的評価が70%以上。</p>	<p>(1) 学校評価アンケート「初任者教員へのサポート体制」 ・肯定的評価 38%(昨年 31%) ・校長による授業見学及び面談を年2～3回実施した。指導教諭による授業見学などは随時実施。(×) (2) 学校評価アンケート「教員間での授業に関する意見交換」 ・肯定的評価 63%(昨年 63%) ・新中高のコンセプト、準備の進捗状況などの共通理解を図るため、滝井高校と大和田中高の合同研修会を4回実施した。全体会の後に、各教科で授業計画などの協議を行った。(○)</p>
<p>4 教職員の学校運営に関する意識の向上</p>	<p>(1)新中高開校と校舎移転の円滑な実施。 (2)募集広報活動の活性化。 (3)各種会議の時間短縮や事務の効率化 (4)危機管理意識の向上。 (5)家庭との連携協力の強化。</p>	<p>(1)カリキュラム、施設・設備、情報システム、募集広報、入試の各WGのメンバーを中心に新中高設立準備室と滝井高校との連携を図る。 (2)新中高として初めての募集広報活動となるが、滝井と大和田が協力して定員確保に向けて広報活動を積極的に行う。 (3)職員会議、運営委員会などペーパーレスで行い、1時間以内を目標に効率よく運営する。そのことにより、生徒指導の時間を確保するとともに、時間外勤務の減少など働き方改革の意識を醸成する。 (4)新型コロナウイルス感染予防対策の徹底、防災意識の向上、生徒の事故防止など危機管理意識の向上を図る。 (5)保護者への連絡、PTA活動の活性化など、学校と家庭との連携強化を図る。</p>	<p>(1)新中高の各種会議の情報を共有できるシステムを構築する。 (2)中学90名、高校365名の募集定員の確保。 (3)学校評価アンケートの教員向けの「教職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率よく機能している」の肯定的評価が70%以上。 (4)ア. 学校評価アンケートの生徒向け、保護者向けの「新型コロナ対策を適切に行っている」の肯定的評価がそれぞれ70%以上。 イ. 学校評価アンケートの生徒向け、保護者向けの「学校は緊急時の対応を生徒や保護者に伝えている」の肯定的評価が70%以上。 (5)ア. 学校評価アンケートの保護者向けの「先生は保護者の相談に適切に応じ、意思疎通をきめ細かく行っている」の肯定的評価が70%以上。 イ. 学校評価アンケートの保護者向けの「PTA活動は活発である」の肯定的評価が70%以上。</p>	<p>(1) 各WGやMM会議の議事録を職員共通フォルダーに保存し共有するとともに、特に必要な情報は、職員会議などで報告し情報共有を図った。(○) (2) 中学入学手続き者 97名(昨年 72名) 高校入学手続き者 401名(昨年 275名)(◎) (3) 学校評価アンケート「各種会議の機能性」 ・肯定的評価 51%(昨年 62%)(△) (4)ア. 学校評価アンケート「新型コロナウイルス対策」 ・肯定的評価 生徒 87%(昨年 81%) 保護 92%(昨年 91%)(◎) イ. 学校評価アンケート「緊急時の対応」 ・肯定的評価 生徒 88%(昨年 82%) 保護者 89%(昨年 88%)(◎) (5)ア. 学校評価アンケート「保護者対応」 ・肯定的評価 保護者 77%(昨年 77%)(◎) イ. 学校評価アンケート「PTA活動」 ・肯定的評価 保護者 54%(昨年 62%) 新型コロナウイルス感染拡大のため、PTA行事はほとんど中止となり参加する機会がなかった。(×)</p>

【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析〔令和4年1月～2月実施〕

【結果】

資料① 令和3年度 学校評価（生徒）アンケート集計表

資料② 令和3年度 学校評価（保護者）アンケート集計表

資料③ 令和3年度 学校評価（教職員）アンケート集計表

【分析】

1. 実施状況

対象		対象者数	回収数	回収率	調査期間	備考
生徒	全学年	1014	953	94.0%	令和4年1月24日～2月17日	資料①
生徒	高校3年	254	230	90.2%	令和4年2月17日	資料①
保護者	全学年	1014	953	94.0%	令和4年1月24日～2月17日	資料②
教職員	常勤	61	57	93.4%	令和4年2月1日～12日	資料③

2. 対象別アンケート結果

○ 生徒（高校3年生）

昨年度と比べ、肯定的評価の項目が増えた。コロナ禍で学校行事が縮小された学年であったが、学習面、生活面含め、教職員の熱心で粘り強い指導が反映されている。

表1 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100～90	～80	～70	～60	～50	～40	～30	～0	項目総数
R3年度	12	7	7	4	2	0	0	0	32
R2年度	6	11	9	5	0	1	0	0	32
R元年度	17	8	4	1	0	0	0	0	30
H30年度	7	10	10	3	0	0	0	0	30

ア. 評価A+Bが90%以上の「評価の高い」項目

・保健室での処置や相談の対応は、親切である	97.0%	4.0%
・学校は、学力向上に取り組んでいる	95.6%	5.6%
・学校は、わからなかったときの補習、質問指導に熱心である	94.8%	3.3%
・学校は、資格、検定の取得に取り組んでいる	94.3%	1.3%
・学校は、災害が起こった場合の訓練を行っている	93.9%	2.9%
・学校は、緊急時の対応を生徒に伝えている	93.5%	3.5%
・先生は、熱心に指導している	93.5%	4.0%
・事務室での手続きや相談の対応は、親切である	93.4%	3.5%
・先生は、いじめや暴力のないクラスづくりに取り組んでいる	92.6%	4.6%
・学校の授業は、総じて分かりやすい	92.2%	8.2%
・先生は、生徒の間違った行動を改めるように指導している	92.2%	1.2%
・新型コロナウイルス感染防止対策を適切に行っている	92.2%	9.2%

イ. 評価A+Bが70%未満の「評価の低い」項目

・学校の施設・設備は、学習環境の面で満足できる	52.2%	8.7%
・学校がよりよく変わっているように感じる	58.7%	-4.8%
・本校のホームページ（フェイスブック含む）の内容は、他校と比べて充実している	67.2%	2.9%
・学校は、国際理解・ボランティア活動等に取り組んでいる	67.8%	-3.2%
・本校の生徒であることに誇りを持っている	68.7%	1.2%
・ネットを活用して、生活指導・学習指導が行われている	69.1%	-10.8%

○ 保護者（高等学校）

アンケートの項目（全35項目）を肯定的評価（A+B）の割合で集計したのが表2-1である。肯定的評価が80%以上の「評価の高い」項目は16項目で全体の46%、肯定的評価が60%未満の「評価の低い」項目は6項目あり、授業参観やPTA活動など、新型コロナウイルス感染防止のために実施できなかった項目、および、施設設備の項目、ボランティア活動などである。

表2-1 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100～90	～80	～70	～60	～50	～40	～30	～0	項目総数
R3年度	3	13	10	3	4	1	1	0	35
R2年度	6	11	12	2	2	2	0	0	35
R元年度	3	15	12	1	2	0	0	0	33
H30年度	2	13	11	5	2	0	0	0	33

ア. 評価A+Bが90%以上の「特に評価の高い」項目

・新型コロナウイルス感染防止対策を適切に行っている。	91.6%	1.0%
・学校は、保護者に出す文書・事務連絡を適切に行っている。	90.5%	-2.5%
・学校は、資格、検定の取得に取り組んでいる。	90.1%	0.7%

イ. 評価A+Bが60%未満の「評価の低い」項目

・学校は、保護者がお子さまの学校生活を参観する機会をよく設けている。	33.8%	-9.2%
・学校のPTA活動には参加しやすい。	40.8%	-3.2%
・学校でのPTA活動は活発である。	53.1%	-5.3%
・学校の施設・設備は、学習環境の面で満足できる。	57.0%	5.1%
・学校は、国際理解・ボランティア活動等に取り組んでいると思う。	57.4%	10.2%
・ネットを活用して、生活指導・学習指導が行われている	58.7%	-21.5%

○ 保護者（中学校）

アンケートの項目（全35項目）を肯定的評価（A+B）の割合で集計したのが表2-2である。肯定的評価が80%以上の「評価の高い」項目は23項目で全体の66%、肯定的評価が60%未満の「評価の低い」項目は3項目であった。

表2-2 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100~90	~80	~70	~60	~50	~40	~30	~0	項目総数
R3年度	6	17	8	1	2	1	0	0	35
R2年度	5	17	9	3	1	0	0	0	35
R元年度	5	15	9	4	0	0	0	0	33
H30年度	3	16	11	2	1	0	0	0	33

ア. 評価A+Bが90%以上の「特に評価の高い」項目

・学校は、資格、検定の取得に取り組んでいる。	97.0%	0.8%
・本校のホームページを御覧になったことがある。	95.5%	-0.3%
・新型コロナウイルス感染防止対策を適切に行っている。	94.0%	3.4%
・お子さまは、文化祭・体育祭、宿泊行事などの学校行事に積極的に参加している。	93.9%	3.3%
・学校は、印刷物・ホームページ等で保護者に教育方針をわかりやすく伝えている。	91.9%	2.7%
・事務職員の保護者への対応はよい。	91.5%	-2.8%

イ. 評価A+Bが60%未満の「評価の低い」項目

・学校は、保護者がお子さまの学校生活を参観する機会をよく設けている。	48.2%	-15.7%
・学校のPTA活動には参加しやすい。	52.6%	-1.0%
・学校でのPTA活動は活発である。	58.7%	-7.3%

○ 教員（常勤）

アンケートの項目（全50項目）を肯定的評価（A+B）の割合で集計したのが表3である。肯定的評価が80%以上の「評価の高い」項目は21項目で全体の42%、肯定的評価が60%未満の「評価の低い」項目は11項目で全体の22.0%であった。評価A+Bが90%以上の「特に評価が高い」項目の10項目と評価A+Bが50%未満の「評価の低い」11項目は、以下の通りである。

表3 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100~90	~80	~70	~60	~50	~40	~30	~20	~10	項目総数
R3年度	10	11	9	6	3	3	4	4	0	50
R2年度	17	6	10	6	1	3	4	3	0	50
R元年度	8	9	16	3	3	6	3	0	0	48
H30年度	13	8	8	6	5	3	4	0	1	48

ア. 評価A+Bが90%以上の「特に評価の高い」項目

・カウンセリング制度があり、活用されている。	98.2%	5.3%
・体調不良・ケガ等への対応はスムーズに行えている。	96.5%	-2.1%
・年間を通じた教育計画を各教科別に立てている。	94.7%	4.6%
・学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。	94.7%	-2.5%
・教育課程は学習指導要領に沿っている。	94.6%	1.7%
・生徒アンケートを踏まえて、分かる授業の実践に向けての取り組みが行われている。	93.0%	1.3%
・生徒指導において、家庭との連携ができています。	93.0%	-4.1%
・挨拶をすることや時間をまもる指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている。	92.9%	-4.3%
・新型コロナウイルス感染防止対策を適切に行っている	92.7%	-1.7%
・保健室の機能が十分に活用されている。	91.2%	1.1%

イ. 評価A+Bが40%未満の「評価の低い」項目

・教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。	22.8%	-4.3%
・研修、研究に参加した成果を、他教員に伝えて情報を共有する体制がある。	23.2%	-1.1%
・評議員会、理事会の役割や機能について理解している。	26.3%	-2.3%
・併設大学・短大との連携体制が整い、指導が行われている。	29.8%	-0.2%
・地域や地域住民との交流ができています。	33.9%	-12.5%
・ボランティア活動は活発だ。	34.5%	-4.1%
・初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。	37.5%	6.1%
・予算、決算の収支の状況について理解している。	39.3%	5.0%

学校関係者評価委員会からの意見

○ 学校関係者評価委員会

<委員>

大阪国際大学特任教授	中村 昌子
守口市立大久保中学校長	西岡 篤司
寝屋川市立第五中学校長	宮崎 浩太郎
大阪国際大和田三窓会会長	岩本 和也
大阪国際PTA会長	松永 尚樹
守口市よつば地域コミュニティ協議会代表	小野 勝幸

<学校関係者>

校長 清水 隆、副校長・高校教頭 黒川 泰宏、中学教頭 田中 茂、事務長 塚本 和宏

○ 校長からの今年度の取組に対する見解

1 確かな学力の育成

新型コロナウイルス感染状況がなかなか収まらない中、8月末から9月初めにかけて、教職員と生徒に感染者が増えたため、数日間の学年閉鎖や学級閉鎖を実施したが、その後は、再び1月末から2月にかけて感染者が増加したものの、授業はなんとか平常通り実施できた。その間、陽性者や濃厚接触者、あるいはコロナ不安で登校できない生徒などに対して、オンラインによる授業や課題配信により少しでも授業の遅れを解消できるようにした。厳しい条件の下での授業実施であったが、生徒による授業評価アンケートの結果からは、全体的に昨年度よりも肯定的な評価が多く、授業の総合的な満足度は昨年度に続き前年度よりも0.06ポイント向上した。また、授業の重要な要素である思考力、判断力を身に付ける授業についても昨年度より0.04ポイント向上した。ただ、教員の授業改善に向けた研修などの取組がほとんどできず、昨年度とほぼ同じで低い評価となった。

生徒の自学自習の取組は、これまでの朝学習や毎日課題などを継続したが、英語と数学でほぼ目標に近い評価となったものの、全体としては生徒自身の意識の向上にはまだつながっていない。

進学実績については、最終的に国公立大学58名、関関同立223名と昨年の実績以上の成果で目標を達成できた。

2 グローバル社会に貢献できる人材の育成

(1) グローバル人材育成の取組み

昨年度同様に、新型コロナウイルス感染拡大の影響を最も大きく受けたのが、国際交流の取組である。中高ともに海外修学旅行は中止となり、そのほか予定していたオーストラリアの姉妹校への短期留学、UCLA研修やケンブリッジ大学研修、ベトナムボランティア研修などすべて中止となった。海外からの留学生受け入れもできなかった。ただ、中学校では姉妹校とのオンラインでの交流を始めた。コロナの状況が改善された際に、相互交流が円滑に再開されるよう、高校も含めて準備を整えていく必要がある。

校内での中学生対象の英会話学校講師によるワークショップ（イングリッシュキャンプ）や留学生との交流の場であるグローバルビレッジ、英語によるスピーチコンテストなどは感染対策を取りながら実施できた。また、新たな試みとして中学校ではオンライン英会話の授業を実施した。フィリピン人の講師とマンツーマンでライブの会話を体験できるということで次年度は正式に導入することになった。

英検の新規合格者は昨年度に比べて減少したが、高校3年生のG-TECの結果に関しては、大幅に上位者が増えて全体平均もかなり向上した。

本校の大きな特色の一つとして恒例となった、世界の様々な分野の第一線で活躍されている方を講師としてお招きする「ココロの学校」では、今年度も5回実施した。アフリカの少年兵のお話、自転車で世界一周、英語落語、経済記者による読解力を身に付けるための方法、受験生へのエールなどバラエティに富んだ内容でした。いずれもグローバル社会で生き抜くために非常に参考となるお話ばかりで、生徒たちの評価もかなり高いものでした。

(2) 生徒指導の充実

不登校の生徒の増加傾向が続いている。特に、転・退学者の高校での総数は13名とほぼ昨年並みだが、今年度の特徴は、各学年の早い段階で欠席日数が規定を超えて進級や卒業の見込みが立たなくなったため、単位制への転学を決める傾向が強くなったことである。これは、担任及び学年主任が保健室と連携して早めに生徒・保護者と相談しながら判断した結果だと思われる。

ここ数年の生徒指導上の問題行動の多くは、スマホがらみのSNS上のトラブルが主な原因である。生徒同士の誹謗中傷などの書き込み、不適切な画像の投稿から校内でのトラブルに発展するといったケースが目立っていたが、今年度は6月までに3件あったが、それ以降はこの件に関する指導事象は生じなかった。コロナ禍の中で、全校集会ができない状況であったため、各学年単位の集会などの場面でSNS利用上の注意を促すとともに、中学生には、生徒・保護者それぞれに向けて外部講師による講演会を実施し、SNS利用に関する危険性を周知した。このような日頃の指導の効果が少しずつ表れてきているのではないかと思う。

3 教員の資質向上

これまでも教員研修の機会が少ないことは課題となっていたが、8月に大阪国際大学の特任教授を講師としてお招きして、「より良い人間関係を築くためのコミュニケーションの取り方」の講演会を行った。ワークショップ形式での研修で、より実践的な内容であったので教員には好評であった。

新任教員に対する指導は、年度当初の全体でのオリエンテーションができなかったため、管理職や指導教員による授業見学や個別指導が中心となった。教員全体での授業見学や研究授業などが実施できない状況だったため、昨年度に引き続き学校評価アンケートの評価もかなり低い状況となった。

新校に向けて教職員の意思疎通を図るために、滝井高校との合同研修会が4回開催された。全体会の後で、教科ごとに両校の教員が交流する機会も持つことができ、有意義な研修となった。

次年度に向けて、新たに設置される総合企画室と教学企画部とが連携して、それぞれの教員のキャリアやニーズにこたえられるような研修を計画的に実施し、教員の資質向上を図るための体制を整備していきたい。

ICT活用に関しては、Google Classroom や Zoom などを利用して、遠隔授業や遠隔会議などが頻繁に行われるようになったのは、コロナ禍の中での副産物であった。授業の中でのプロジェクト利用はほとんどの教員ができるようになっており、今年度後半には、新型コロナの影響で自宅待機を余儀なくされた生徒向けに、学校の授業をライブで配信するリモート授業の取組みもある程度実施できるようになった。

4 教職員の学校経営に対する意識向上

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大に伴う様々な対応に追われた1年であったが、昨年度のような長期にわたる臨時休業がなく、ごく一部の学年やクラスでの短期間の臨時休業にとどまった。健康チェックや消毒などの予防策を教職員が一丸となって徹底し、保護者の協力も得られたこともあって、校内でのクラスターと思われるような案件は見られなかった。学校評価アンケートの結果も生徒・保護者ともに90%以上肯定的評価をしており、感染者も最小限に食い止めることができた。

募集活動に関しては、新校で全く新たな募集体制で取り組んだため、イベントの回数も多くなり、業務としてはかなり負担が大きくなった。各説明会や個別相談での反応はよく、結果的には中学で募集定員を超える97名が入学手続きを済ませ、高校においても昨年より専願者が大きく増加し、定員365名を35名超える400名が入学手続きを済ませた。

保護者対応に関しては、きめの細かな丁寧な対応や緊急時の対応について肯定的な意見が80%近くを占めており、好意的に受け止めていただいている。ただ、PTA活動は、昨年度に引き続きほとんどの行事が中止となり、学校教育活動への費用補助と会報誌が2回発行された程度にとどまった。

来年度は、新たな校舎で松下校長のリーダーシップのもと、新体制で学校運営に臨むことになるが、大和田からの在校生と新たに迎える新入生をしっかりと教育し育てていけるように引き継いでいきたい。

○ 評価委員会からのご意見（今年度は委員会を開催せず、書面にてご意見を集約した）

1 確かな学力の育成

- ・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善やICTを使った授業によりアンケートでは素晴らしい結果になっている。また、自学自習の取り組みや希望進路実現のために取り組んでいるのがわかる。
- ・確かな学力、学習指導の充実の観点から、更なる進学実績の向上を期待している。特に、グローバル社会への貢献にも寄与できるであろう、海外大学への進学実績も増やしていただくことを期待する。
- ・ICT機器を活用した授業づくりやプレゼンテーションスキルの向上も期待する。その為の環境づくりが必要であると考えます。
- ・今後さらにグローバル化していく社会においては、自身で考え、適切に表現し、他者と望ましい関係を築いていく力が求められる。この力の育成に大きく関わる、今年度の具体的取り組み「授業における思考・判断の機会」の評価が上がっていることはとても素晴らしいことだと思う。これからも、生徒の今と未来を見据えたご指導をお願いしたい。
- ・全体的に評価が高い状態を維持しているので、引き続きモチベーションを感じられる状態を保ってほしい。
- ・学校の掲示板を楽しみに見せてもらっている。大学の合格実績の伸びは、更なる学校のイメージアップにつながると確信している。
- ・よい評価をさらに伸ばし、課題の取り組みの対策をぜひお願いしたい。

2 グローバル社会に貢献できる人材の育成

- ・現在、多くの学校でSNSに関するトラブルが起こっている。これを見過ごしてしまうと深刻ないじめや大きな事件に発展するため、すぐに対応されたことは非常によかったと思う。また、当該生徒の問題として終わるのではなく、全体講演会を実施されたことも素晴らしいご判断であったと考える。就職活動の際に裏アカウントまで調査される今、生徒にはSNSのリスクを理解した上で使用してほしいと思う。
- ・ボランティア活動についての数値も低いところがある。こちらは、校外清掃やインターアクト部を発足させるなどして、ぜひ、ボランティアを通じた心の教育もお願いしたい。本来は生徒会が中心となるところかと思うが、半期で変わる生徒会で腰を据えてじっくりと取り組める体制になっているかという点も疑問である。
- ・海外の中学・高校との交流について、オンラインはどのような形式で実施されたのか。E-mailではなくチャット方式のリアルタイム・コミュニケーションの方が時代には合っていると思う。
- ・中高個別の評価が前年よりも大きく改善している。これはクラブ活動での充実感の表れと考える。
- ・コロナ禍の中でも海外の中学校や高校との交流を実施されている。また、SNS利用に関するトラブルなどに向けた講演会を実施するなど、いじめにつながる問題事案の発生防止に努められている。
- ・生徒理解促進の観点から、校内行事や美化活動ボランティア活動などの企画と充実を期待する。

3 教員の資質向上

- ・中期目標に教科の枠を超えた公開授業を挙げられていて、教員の授業力向上に熱心に取り組んでいらっしゃる事がよくわかる。学び続ける教員は、学校の宝です。システムとして、学校の中に定着してほしいと思う。
- ・教職員の研修、教育、OJT制度が弱いように思える。教職員のスキルの差が大きいように見える。しっかりと研修、教育することは子供に成果として返ってくるので、子供の成長につながる教育、研修、OJTは是非ともお願いしたい。
- ・先生方に対する評価は総じて高く、先生方と生徒の間で信頼関係が構築できていそうだが、一方で先生方側の働きがいや実感ができているのかが気がかりである。
- ・教員へのサポート体制に関して、例年数値がなかなか上がらず、若手教員のサポートはもう少し手厚くするべきと考える。特に新校は手探りになることが多くなるのが考えられるので学校側の協力は不可欠である。
- ・教職員の資質向上、学校運営に対する意識の向上の観点から、授業公開や研究発表会等外部に開かれた先進的な取り組みの公開等も実施していただければありがたい。
- ・全教職員による研究授業などの取り組みをさらに進めていくことにより教員の資質向上につながると思う。

4 教職員の学校運営に関する意識の向上

- ・めざす学校像に向けて、中期的目標を掲げそれをほぼ実行されている。

また、コロナ禍のためにできないことや変更せざるを得ない中、多くの取り組みが工夫されたことによって色々な成果を発揮されているようにみられる。

- ・新校の教室のつくりや配置など、とてもフレキシブルで、いろいろな可能性を感じた。これをどのように活かしていけるのか。これからの御校の教育に大きな期待を持っている。
- ・新中高への在校生と教員のモチベーションがどのような状態になっているか知りたい。
- ・PTA担当として、コロナ禍といえどもフットワークよく、コロナ禍だからこそ、情報発信が必要であった。来年度からは広報、進路、文化厚生、保健体育の委員会を復活させ、広報は学校行事に積極的に参加し、学校とともに情報発信していくことを考えている。
- ・PTA活動についても、これらの委員会並びに学年毎が大人のサロンと題しまして一ヶ月に一度保護者が時には生徒も参加できるものを少人数ながら参加できるものを作って行く予定である。
- ・学校の施設、設備の項目は新校でどの程度変化があるか注視したい。
- ・ペーパーレスの取り組みを行っているようであるものの、内容や時間的な問題がありそうである。どのような部分に職員の問題意識があるのか分析したほうが良いと感じる。

- ・保護者向けアンケートでは、全体的に中学よりも高校になると評価が下がる傾向があるのはなぜか。
- ・地域交流に関して評価が低いのが気になる。災害時のために地域との交流は必要である。地域においても、イベント等を通じて学校との交流をしていきたい。
- ・めざす学校像、中期目標の達成に向けて、一丸となって邁進されることを期待する。
- ・人権教育等の観点から道徳教育の充実やキャリア教育を通じた心の育成を期待する。
- ・コロナ対策など危機管理意識をもち、日々取組みをされている。また、保護者（家庭）との連携を細かく行っているのが見える。